東京オリパラから学ぶこれからのバリアフリー連続研修

愛知県重度障害者団体連絡協議会
〒466-0037　愛知県名古屋市昭和区恵方町 2-15

助成事業の概要

東京オリンピック・パラリンピック（以下、東京オリパラ）が昨年行われ、共生社会の実現に向けた大きな一歩を踏み出しました。また、バリアフリー法もこの契機に改正され、障害の有無に関わらず、すべての人にとって生活しやすい街と変化させることができました。

2026 年にアジア競技大会・アジアパラ競技大会が愛知県近郊で開催されます。東京オリパラのコンセプトとレガシーを引き継ぎ、この地域においても、共生社会の実現に向けた、着実な一歩を築くことが必要です。

2022 年 9 月 13 日より、登壇者・司会・事務局にて打合せ会 (学習会) 複数回。

2022 年 11 月 13 日　シンポジウム開催 (ZOOM)、コロナ禍により登壇者と事務局のみ会場。

講演「オリパラの楽しさ」講師：太田捗子 (パラリピアン)

シンポジウム「前回のシンポジウムから進んだこと」

ふじた和秀 (名古屋市会)、平松修 (名古屋市健康福祉局長)、入谷忠宏 (愛重連事務局長)、磯部友彦 (中部大学教授)

シンポジウム「それぞれの、これからの取組」

上記メンバーに加え、工藤登志子 (DPI 日本会議バリアフリー部会)、太田捗子

事業の成果

昨年度に続き、日社済様の助成を受け、各競技施設や交通アクセスなどのアクセシビリティな環境作りをするために、愛重連主催のシンポジウムを開催しました。

昨年度、「東京オリパラ 2020 の継承」と題して、DPI 日本会議から講師に迎え、新国立競技場の建設されるプロセス、当事者参画の必要性を話していただき、行政（名古屋市）から、アジア競技大会担当者 2 名と地元障害者団体として愛重連が登壇し、行政からは、競技場のバリアフリー化と当事者の声・参画をこれからも取り入れることなど、瑞穂陸上競技場の周辺地域の交通アクセスとアクセシビリティの整備をしていくことも伝えていただきました。東京オリパラのコンセプトとレガシーを引き継ぎ、開催前から開催後についてのバリアフリーという視点から、パラアスリート、大会関係者、行政、専門家等を招き、シンポジウムを企画しました。昨年度のシンポジウムから約半年が経ち、シンポジウムでの発言や当事者団体の関わりが、どれくらい取り入れられ、どのくらい進んでいるか検証を行いました。今年度、シンポジウムを開催し、様々な視点と当事者参画を重要視した上で、一緒に作り上げていくこと、地域の方や、行政の方が、一緒になり環境を作る大切さを伝え、バリアフリー調査をすることで、様々な問題・課題がみつかり、一緒に計画作りをすることができ、バリアフリーな環境作りに反映されました。パラリピアンの講演では、欧米では障害の有無で競技大会を分けるのではなく、同時

に開催されることが多いと聞き、スポーツにおいてもインクルーシブな状況が当たり前となっていることを学べました。シンポジウムについて、バリアフリー化に関し、今回の愛知でアジア競技大会・アジアパラ競技大会が開催される中、東京オリパラ 2020 の新国立競技場建設に障害当事者が参画を参考に、まちづくりにおける好機を逃さないように調査及び懇談などの活動に努めることができました。

成果の広報・公表

昨年度、「東京オリパラ 2020 の継承」と題して、DPI 日本会議から講師に迎え、新国立競技場の建設されるプロセス、当事者参画の必要性の講演、行政（名古屋市）から、アジア競技大会担当者 2 名と地元障害者団体として愛重連が登壇し、行政から、瑞穂陸上競技場の周辺地域の交通アクセスとアクセシビリティの整備、当事者参画をしていくことのシンポジウムを開催。

今年度、東京オリパラのコンセプトとレガシーを引き継ぎ、開催前から開催後についてのバリアフリーという視点から、パラアスリート、大会関係者、行政、専門家等を招き、シンポジウムを開催。昨年度のシンポジウムから約半年が経ち、進捗状況の報告があり、競技場のスロープ・入退場でのバリアフリー化及び地下鉄大型エレベーターの設置など、「瑞穂陸上競技場及び周辺地域の重点指定都市計画」が進められ、来年度移行の計画となり、実施されることになりました。

今後の展開

障害有無なく、選手及び観客、大会運営に関わる方として、建設物や交通アクセスなどのアクセシビリティが整い、スポーツ、コンサート、イベントに安心して利用できるように働きかけていきます。これから始まる計画に、メイン会場の名古屋市のみでなく、愛知県下で開催される地域に向けて、岡崎市・刈谷市を皮切りに、建設及び設営計画、障害の理解を、当事者参画の上で進めていき、当事者の参加があることでより、バリアフリーな環境に努めていきます。東京オリパラ 2020 のレガシーを受け継ぎ、アジア競技大会・アジアパラ競技大会の開催が、みんなが楽しめる大会を目指します。